

## 東京研修のまとめ

## 三菱商事

三菱商事は、コーポレート、ビジネスサービス、新産業金融事業、地球環境・インフラ整備など多分野にわたり様々な事業を行っている大企業である。そのビジネスモデルにはこれまで少しの変化があった。それは、原材料から製品に、という市場の流れの中で、三菱商事の立場が変化したということだ。以前は、原材料と製品の間を仲介する仲介業者だった。しかし現在は、原材料と製品との間の流れを総合的に包括する、総合商社となっている。現在三菱商事は約90か国にグローバルネットワークを展開しており、連結対象会社数は626社である。

わたしは三菱商事について学び、実際に三菱商事を訪問するまで、総合商社というものが何をやる会社なのか知らなかった。三菱商事訪問に向けての事前学習の中で、総合商社というものの活動の幅の広さを知った。そして、具体的な仕事内容について興味湧いてきた。実際の訪問では、社員の方から三菱商事が携わっている事業について深い話を聞くことができた。鮭養殖事業、金属資源ビジネス、モザールアルミニウム工場についてである。説明して下さった三菱商事の社員の方の経歴も聞くことができ、自分と比較することができとても参考になった。その中で特に印象に残ったのが、説明して下さった社員の方の多くが、勉強だけではなく広くたくさんの方の経験されてきていたということである。

仙台二高でも文武一道という精神をはじめ、勉強だけに偏らず多くのことを身につけようという考えがあるのを再認識した。社会から必要とされるのは1つの分野だけでなく多分野にわたり能力を発揮できるひとなのかもしれないと感じた。その後の三菱商事の社員の方やディレクトフォースの方との交流からも、多くのことを学ぶことができた。私は二人の方と交流をすることができた。それを振り返ってみると、二人の方が共通して最も伝えられたことは、「コミュニケーションの大切さ」だったと思う。

一人目のディレクトフォースの方は、ロンドンに住んで仕事をされていたときの経験から、次のようなことを話された。「日本と海外のコミュニケーション意識の違い」である。ディレクトフォースの方も話されたが、私もそう感じたことに、日本人は海外の人と比べ、あまり積極的にコミュニケーションをとりたがらない傾向がある、ということがある。ディレクトフォースの方は、その原因は、日本は単一民族、単一文化であり、海外では多民族、多文化の社会が一般的であるといわれていた。たしかに、多民族、多文化の中で暮らしていれば必然的にコミュニケーションをとってお互いを理解し合う必要が出てくるので、積極的にコミュニケーションをとる風潮が増すと思う。逆に、単一民族、単一文化の中で暮らしていると、以心伝心といわれるようにあえて積極的にコミュニケーションをとらなくても互いが理解できてしまうことがありコミュニケーションに対して消極的になってしまうとも思う。しかし、私は、学校の教科に英語があることが示すようにこれからは今まで以上に海外の人と日本人との交流が増える中で、海外と日本のコミュニケーションの格差は縮めなければならないと思った。また、日本人同士でもコミュニケーションが希薄になることがあるので、コミュニケーションを積極的にとることは大切だと感じた。その方は、たとえ言葉などの壁があっても、伝えようとする意志があれば、大抵伝えたいことは伝わるとおっしゃっていた。私も、伝えようとする意志を強くもつことを心掛けようと思った。また、コミュニケーションをとるときに、知識が豊富だとより深い話ができるということも話された。深い知識によって普通よりも深い話ができると、互いの距離が縮まるという利点のほかに、例えば、宗教を通じて相手の考えをある程度知ることができるという利点もある。相手の宗教についての知識を持っていないと、相手の宗教的な行動の意味が分からず、混乱してしまうことがあるだろう。そのような場合に相手の宗教についての知識があれば相手の考えがある程度分かり、あまり混乱することはないと思う。よって、コミュニケーションにおいて知識が豊富であることは重要であると思う。その方との交流の終わりに、私から1つ質問をさせていただいた。それは、「学生のうちに留学などを通して海外を知っておく必要はあるか」というものだ。その方は、海外の経験からは得られるものが多いから、出来れば挑戦してみるのが良い、また、若いうちはあまり失うものがないので、色々なことをやってみるのが良いとおっしゃった。そのときに注意しておかないといけない事としては、日本と海外ではルールの違いがたくさんあるということだ。少しの間でも海外で生活するとしたら、自分の行く国のルールについてしっかりと学び、その国に自分をしっかりとあわせていかなければならないそうだと。

また、もう一人の社員の方にも話を聞くことができた。その方も、コミュニケーションの大切さを中心とした話をされた。その方は、コミュニケーションにおいて英語は重要だといった。英語ができると交流できる人の幅がぐっと広がる。コミュニケーション能力を高めることも大切だが、それを生かすには英語などの言語を習得したほうがよい。私も現在学校などで英語を勉強しているが、実際にコミュニケーションの道具として英語を使えるかどうかは自信がない。この話を通して、私は実際に海外などで英語が使えるように、普段の勉強の意識を変えていくべきだと感じた。学校での生活から得られる重要なものとして、「周りへの気遣い」というものがある。その方は、周りへの気遣いは主に部活動から学べるとおっしゃっていた。部活動は、その種類に関わらず、周りの人への協調性を必要とする。例えば、野球部では、みんなで一つの目標に向かい、全員で協力しなければ勝つことはできないだろう。そのときチームの一員ならば必然的に、周りの人のことを考えて行動するようになると思う。

自分の行動が周りにどんな影響をおよぼすか、どうすればチームの力になることができるか…そのような考え方は社会に出てから必要になる考えかたと似ていると思う。逆に、部活動で得た競技の技術などは社会に出てからはあまり使うものではないとも思う。部活動において結果を求めることは大事だが、そればかりを追い求めて本当に大切なものを見失ってしまうのは良くないことだとも思う。また、これも部活動に置き換えられることだが、上の立場にいる人は自分より下の立場にいるひとに対してどう接するべきか、ということも話された。その方によると、上の立場にいる人は、下の立場の人を良く見て、フォローすることが大切だという。私の印象では、上の立場の人、部活動に例えると部長のような人は何となく話しかけにくい、近寄りがたいようなイメージをもってしまっていたことがあった。しかし、立場が上であれ下であれ、同じ集団に属している以上は、コミュニケーションをとっていったほうがよい。そこで上の立場の人が下の立場の人へ積極的に関わりをもっていくことは重要なことだと思う。また、上の立場の人が下の立場の人をフォローしていくことができれば、信頼関係が生まれると思う。

私は東京研修の三菱商事の企業訪問で、これらのことを学ぶことができた。ここで学んだことをしっかりと記憶にとめ、今後生かしていきたいとおもう。